

1 題材名 マイ ワールド ～感じて ためして ひらめいて～（絵）

2 題材について

本題材で児童は、体全体の感覚を働かせ、様々な特徴を持つ材料に触れながら表したいことを見付けていく。感覚や感情、印象などの自分の内側にあるものを見つめ、自分が気に入った感じや表し方を追求して思いを表現してほしいという願いから、題材名を「マイ ワールド」とした。また、材料の特徴から感じたことをきっかけに、様々なことを試しながら気に入った感じや表し方を見付けるとい学習活動の見通しを持たせるため、副題を「感じて ためして ひらめいて」とした。

本題材は、新学習指導要領第5学年及び第6学年の内容「A表現」(1)イ「絵や立体、工作に表わす活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見付けることや、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考えること」、(2)イ「絵や立体、工作に表わす活動を通して、表現方法に応じて材料や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと」、「B鑑賞」(1)ア、共通事項(1)ア、イを受けて設定した。高学年になると観察力が高まり、写實的に表したいという思いとともに、思い通りに表現できないと感じたり、友達と比べ自分の表現に自信を失ったりする児童の姿が見られる。本題材を通して自分の感覚や思いを大切にしながら自分の内側にあるものを自分らしく表現し、友達とそれぞれの感じ方や表し方のよさや違いを認め合う体験をすることは、つくり出す喜びや充実感を生み出し、造形性を広げたり豊かな感性を育んだりする基盤になると考える。

本題材では基底材として70cm四方の正方形の段ボールを扱う。普段手にする画用紙よりもはるかに大きく適度な抵抗感のある段ボールを見た児童は、体全体の感覚を使って関わろうとする意欲を持つだろう。また、段ボールカッターで比較的容易に好きな形に切ることのできる段ボールは、材料に関わり自分の気に入った感じを工夫して表現するという題材のねらいを児童に体感させるのに適していると考えられる。材料は児童が感覚を豊かに働かせられるよう配慮し、形、色、質感の異なるものを豊富に用意する。小石、土、小枝、葉などの自然材や、液体粘土、緩衝材、ビー玉、布、ストロー、共同絵の具などの人工材などを「材料コーナー」に置き、触って確かめながら自分の思いに合うものを自由に選べるよう場を設定する。また、より自分の思いに合った材料を生み出す場として「新材料開発コーナー」を設ける。材料自体の可能性を追求する場として、「材料と材料」「材料と色」の視点を与え、自分の思いに合う材料を作らせることで、さらに自分の気に入った感じを見付けさせたい。本題材の導入では、教師から与えられた抽象的なテーマを2人組で表現する時間を設ける。その後、全体で作品を鑑賞し合う中で、一人一人の気に入った感じを見付けさせていく。十分に一人一人のイメージが広がったところで、自分の思いを表す活動へと展開する。思いを表しながらアイデアが展開し、テーマが変わる児童、最初から計画的に進める児童、周りを見ながらじっくり取り組む児童など、テーマが固まるタイミングや活動の進み具合など、ペースに差が見られることが考えられる。それぞれのペースを大切にしながら、見守るよう支援していきたい。学

習の終わりに互いの作品理解を深める鑑賞活動を設定し、自分の内側を表出した作品を認め合う喜びを感じさせ、表現に対する意欲を高めたい。

児童はこれまで、絵をかく会で人物や風景などの具象的なテーマを多く描いてきた。一方で、感情や感覚、印象といった抽象的な自分の内面を絵で表現する経験はあまりしていない。また、教師から知識や技術を学び、示された段取りに従って活動する授業形態に慣れており、「何を、何で、どのように表現するか」を自分一人で追求する活動に抵抗を持つ児童が少なくないとする。そこで、まずは抽象的なテーマに慣れるため、導入で教師が抽象的なテーマを与え、2人組で試作する時間を十分に確保する。テーマには「楽しい感じ」「にぎやかな感じ」「春の感じ」などの感情、感覚、印象からくるものが考えられる。表し方を工夫するための視点として「色」「形」「質感」の3つを与えることでイメージを共有しやすくし、話し合いを深められるようにする。また、活動の最中に進んで材料を組み合わせたたり、重ねたり、色を塗り重ねたりして工夫している児童を称賛し、この段階で材料の特徴を感じ、試し、ひらめくことを全ての児童が実感できるようにしたい。できた作品を掲示し、色、形、質感やその組み合わせに着目して鑑賞し合う活動を通して自分の気に入った感じを見付けさせ、テーマを考えるきっかけとする。導入で友達と協力して製作し、鑑賞する活動が個人での製作に生きるだろう。児童によって製作の手順や、テーマの設定のタイミングに違いがでてくることが予想される。授業中の児童の様子を確認したり、ワークシートを活用したりしながら、児童の活動状況を把握し、個に応じた支援をしていきたい。

3 題材の目標

(1) 知識及び技能	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ○段ボールカッターや接着剤などの用具を、用途や表現の効果に合わせて適切に扱う。 ○自分の表したい思いに合わせて、材料の形や色、質感を生かしながら表し方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな方法を試しながら自分の思いに合った表し方を見付け、形や色、質感の構成を考える。 ○材料の形や色、質感などの特徴を生かした表現のよさや面白さを感じたり、自分の作品に生かしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な材料に触れながら、形や色、質感などの感じをとらえようとする。 ○感じたことを伝え合ったり表し方を試したりしながらイメージを持つことを通して、自分の思いを形や色、質感で表そうとする。

4 指導計画

- 体全体の感覚を働かせて材料に働き掛け、抽象的なテーマを絵に表わすことに興味を持つ。
- お互いの作品を見せ合いながら、自分の気に入った感じや表し方を見付ける。 ————— 2
- 様々な方法を試し材料に働き掛けながら表したいことを見付け、組合せや構成を考える。
- 自分思いやイメージが形や色、質感と結び付くように、自分なりの表し方で思いを深めていく。
————— (本時3/4) 4
- 材料の形や色、質感から、どのようなことを感じ、考えて絵に表したのか、作品を見せ合いながらお互いの表し方のよさについて話す。
————— 1

5 材料と用具

材料	用具
段ボール、緩衝剤、布、画用紙、アルミホイル、ラップ 木の実、石、土、砂、葉、枝、ボタン、ビーズ、ビー玉 麻ひも、麻布、ストロー、モール、アルミ針金、毛糸、ひも 共同絵の具、クレヨン、パス、液体粘土、ニス、セロファンなど	木工用接着剤、化学接着剤 段ボールカッター、はさみ 筆、はけ、取り皿、ローラー など

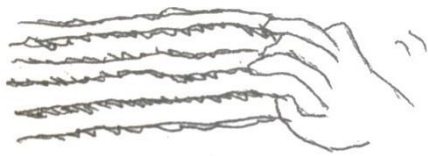
6 本時の指導

(1) 目標

- 自分の表したい思いに合わせて、材料の形や色、質感を生かしながら表し方を工夫することができる。 (知識・技能)
- いろいろな方法を試しながら自分の思いに合った表し方を見付け、形や色、質感の構成を考える。 (思考・判断・表現)

(2) 展開 (5/7)

学習活動と内容	教師の支援と評価 (◆)	資料
<p>1 前時までの学習を振り返り本時のめあてをつかむ。</p> <p>○色、形、質感、組み合わせの観点で、友達の作品の良いと感じたところ、工夫したところを紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るい色を重ねて、楽しい感じになっているよ。 ・液体粘土と土を混ぜて塗ると、地面みたいになったよ。 ・ふわふわした材料とザラザラした材料を組み合わせると、面白い感じになったよ。 <p>○場の設定の確認をする。</p>	<p>○色の重ね方や材料の組み合わせ方などの表し方の工夫を紹介することで、形や色、質感に焦点を当てて作品を構成する意識を持たせる。</p> <p>○具象的な表現をしている児童には、参考作品を見せることで、材料で様々なことを試しながら自分の思いを表現するという題材のねらいを再度確認する。</p> <p>○前時の活動を確認し、本時のめあてと活動の進め方を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカード ・掲示物 ①導入時に製作した作品 ②表現の工夫 ③材料の接着の仕方 ④モダンテクニックの参考資料
<p>色、形、質感を工夫して、マイワールドを表現しよう。</p>		
<p>2 自分の思いやイメージが形や色、質感と結び付くように、自分なりの表し方で思いを深めていく。</p> <p>○材料に関わり、自分の気に入った感じを工夫して表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・液体粘土に土を混ぜたものを伸ばしてから指でひっかくと、川の流れが見えてきたよ。 	<p>○より自分の思いに合った表し方の工夫ができるよう、導入時の作品や工夫を示した掲示物を用意する。</p> <p>○まだ主題が定まっていない児童には、どんな感じを表そうとしているか話し合いながら、徐々に主題を焦点化していく。</p> <p>○活動が停滞している児童には、他の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人工材 ・自然材 ・身近材 ・木工用接着剤 ・化学接着剤 ・はけ ・ローラー ・はさみ

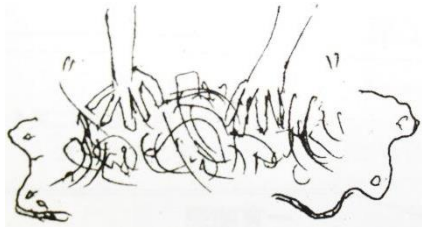


・暗い背景にちぎったアルミホイルをちりばめたら、夜の空が輝いているみたいできれいになったよ。

○自分の表したいもののイメージに合うように材料を開発したり、組み合わせたり、重ねたりする。

・より海っぽい感じを出すために端に白い点を並べて波を表わそう。

・春らしい柔らかさを表すために、ふわふわした麻をボンドで接着しよう



○友達と作品を見せ合い、互いに助言し合ったり、工夫を参考にしたりする。

・赤い絵の具を散らしているのが、火が燃え盛っているように見えるね。

・違う質感の材料を組み合わせでいて、面白い感じがするな。

・○○さんのここは、どうやって作ったの？

3 完成した作品を鑑賞する。

○自分の作品のさらに工夫した点を友達に紹介する。

・何度も色を重ねるうちに、思い通りの感じになってきたよ。

・たくさんの材料を重ねることで、より複雑で面白い形になってきたよ。

4 次時の活動について確認する。

児童の活動の様子を伝えることで、活動のヒントを与える。

○友達と助言し合ったり見合ったりしてよいことを伝え、自分の思いに合った表現の工夫を取り入れられるようにする。

◆自分の表したい思いに合わせて、材料の形や色、質感を生かしながら表し方を工夫している。

(知識・技能)

◆いろいろな方法を試しながら自分の思いに合った表し方を見付け、形や色の構成を考えている。

(思考・判断・表現)

・雑巾

○自分の作品にこめた思いや、表し方で工夫した点を友達と伝え合わせることで、活動への達成感を持たせる。

○多くの友達作品を見て回らせることで、次時に作品を完成させる際の参考にさせる。

○次時の活動について知らせることで、活動への期待を持てるようにする。

マイ ワールド

～感じて ためして ひらめいて～

製作のようす

- A 順調です B 進んでいます
C 不安です D こまっています

学びに向かう姿

- ① 材料に進んでかかわった ② 色、形、質感に気を付けた
③ 材料を組み合わせた ④ 友達と見合った

日付	今日のめあて	今日の学習	一言感想
／ 出会い	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマを表現するにはどうすればいいか話し合おう。(形、色、質感) ○ 2人で相談しながら、いろいろな材料を手に取り、感じを確かめながらテーマを表そう。 ○ 並んだ作品から、自分の気に入った感じを見付けよう。 	① ② ③ ④	
／ ひろがり1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 思い思いに段ボールを切り、切った形からイメージをふくらませよう。 ○ 材料でどんなことができるか、形や色、質感を組み合わせたり重ねたりして試そう。 	① ② ③ ④	
／ ひろがり2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 色、形、質感に気を付けて組み合わせたり重ねたりし、自分の気に入った感じを表そう。 ○ 友達の作品の工夫したところや良い所を見つけ、参考にしよう。 	① ② ③ ④	
／ ひろがり3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 材料の形、色、質感に気を付けて組み合わせたり重ねたりし、自分の気に入った感じを表そう。 ○ 自分の表したい思いとイメージが形や色、質感と結びつくように、材料の組み合わせ方や重ね方、全体の構成を工夫しよう。 	① ② ③ ④	
／ ひろがり4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達の作品の工夫したところや良い所を見つけ、参考にしよう。 	① ② ③ ④	
／ ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達と作品を見せ合い、おたがいの作品から受ける印象や、作品に込められた思い、表し方の工夫を伝え合おう。 	① ② ③ ④	

【場の設定】

